



人生の驚きと不思議に心打たれる映画

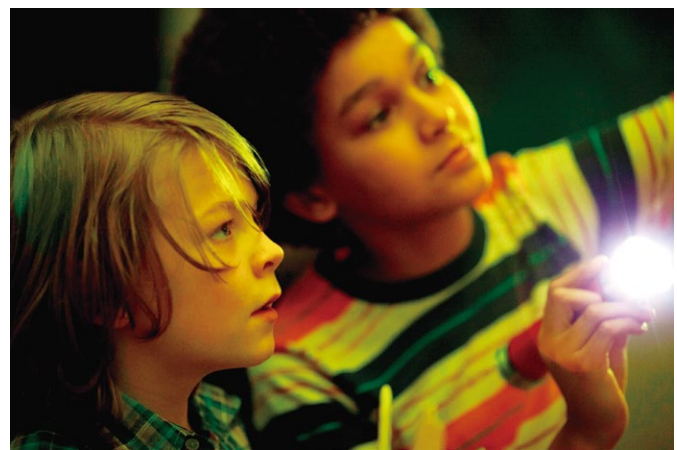
飯泉 菜穂子
民博人類基礎理論研究部

愛おしい映画

人生の早い時期に手話の世界に足を踏み入れ、縁あって今博物館で仕事をしている。そんなわたしにとって「ワンダーストラック」は、とても愛おしい映画だ。さまざまに切り口で語ることができる作品であるが、今回は、ろう者が登場する映画という視点で紹介したい。ろう者を登場人物とする映画はこれまでもたくさん作られてきたが、成長期にある少年・少女を物語のメインに据えたところに、本作の新鮮さがある。

「ワンダーストラック」の主人公は異なる時代を生きる二人、一九二七年のニュージャージーで暮らす少女ローズと一九七七年のミネソタで暮らす少年ベンだ。二人の共通点は大切な人を喪失した寄る辺なき。そして、自分は何者なのか？ どこからきてどこへ行くべきなのかを見つけたという強い衝動と意志だ。

二人のもうひとつの共通点は、耳が聞こえないこと。ローズは生まれつきのもう一つである。裕福な家庭に生まれた彼女は、家庭教師から口話（相手の話は唇の動きを「読唇」し自分の言いたいことは「発声」する）のトレーニングを受けている。彼女の周囲には他にろう者はおらず、手話は習得していない。一方、ベンは、ごく最近アクシデントによって聴力を失ったばかりである。五〇年という時を隔ててマンハッタンを迷走する二人は、やがてニューヨーク自然史博物館にたどり着く。



もう一人の主人公ベンと、ベンとマンハッタンで出会うジェイミー。ジェイミーの父もニューヨーク自然史博物館で働いている (PHOTO: Mary Cybulski)

映画が描く時代と手法

本映画はローズのパートをモノクロのサイレント映画として描くことで、ベンのパートが描くポップで猥雑で色彩にあふれるニューヨークと鮮やかに対比させている。同時

に、両パートの音楽やキーワード・キアアイテムを共有することで、ふたつの時代の行き来に違和感を感じさせない。「夏休みの少年・少女の成長物語」「子ども同士のバディ・ムービー」の趣に、並走するふたつの物語が交わるのかどうかという「謎解きの要素」も加わり、観る者の心を離さない巧みな作りになっている。「暗闇から見上げる星々」というキーワードを昇華させたラストシーンまで、伏線のはり方と回収もじつに見事だ。

一九二〇年代は、映画がサイレントからトーキーに切り替わろうとしていた過渡期にあたりローズの生きる一九二七年はまさに初めてのトーキー長編映画「ジャズ・シンガー」が封切られた年である。一方、ベンが暮らす一九七七年はいわゆるアメリカン・ニューシネマとよばれる一連の動きの終盤にあたる時代だ。映画史的にもエポックといえるだろうふたつの時代が舞台に選ばれていることはとても興味深い。

「聞こえない人」「聞こえないこと」の描き方

設定上は手話を習得していないことになっているローズを演じているミリセント・シモンズ（撮影時三歳）はろう者であり手話話者である。オーディションビデオで「わたしはろう者に

生まれて良かったと思っています。手話は美しく素晴らしいことだよ」と言い切ったという。ティーンエイジャーながらしっかりとアフレコした「アイデンティティー（ろう者であることに対するゆるぎない矜持）」をもった彼女は自身の母語である手話を封印して役作りをしたということになる。ローズのパートでモノクロ・サイレント映画という手法が成功した大きな要因は、ミリセントの圧倒的な自力と存在感だ。ところで、サイレント映画時代のチャップリンはろうの役者を好んで聴者役にキャスティングしていたという。じつは本作でも、モノクロパートには多くのろう者の役者が出演し「聞こえる人（聴者）の役」を演じていることを鑑賞後に知った。ローズの実家のメイド、家庭教師、劇場で上演中の芝居の演者たち、ニューヨーク自然史博物館で働く女性、警察官の一人。なるほどの役も出番は短くても強い印象を残す。

全編をとおして「聞こえないこと」がネガティブに描かれていないことが好ましく、脚本家と監督がろうを文化としてとらえ、その文化に敬意を払い、時間をかけて取材や研究をしたのであろうことが見てとれる。

驚きの宝庫である「博物館」へ

国立民族学博物館では、現在開催中の特別展「驚異と怪異——想像界の生きものたち」の関連イベントとして二月九日に、「みんなく映画会」でこの作品を上映する予定である。是非、作中でも紹介される「驚異の部屋」の究極の進化形である博物館で、この愛おしい映画を共有していただきたい。そう、これは「博物館を描く映画」でもあるのだから。



主人公の一人ローズと兄のウォルター。ウォルターはニューヨーク自然史博物館に勤務している (PHOTO: Mary Cybulski)

「ワンダーストラック」

原題: Wonderstruck

2017年/アメリカ/英語/117分/DVDあり

監督: トッド・ヘインズ

出演: オークス・フェグリー、ミリセント・シモンズ、ジュリアン・ムーア、ミシェル・ウィリアムズほか

2019年11月のみんぱく映画会にて上映予定 (詳細は12頁をご覧ください)